

山王魂 やる気燃ゆる者 道を拓く

五十歩百歩

今日は、私（伊藤悟）の高校3年時の同級生の話です。
くだらない話なので、軽い気持ちで読んでください。

同級生のジョン（仮名・八郎潟中出身）は成績優秀。クラスの誰よりも早く、慶応義塾大学に学校推薦での合格が決まりました。ジョンは喜びましたが、私たちには少し心配なことがありました。それは、「ジョンの言葉が東京の方々に通用するのか」「田舎者とバカにされるのではないか」ということです。彼は、とてもなまっけていて、同級生の私たちでも分からない言葉をたびたび発していました。すぐに「ジョンに正しい日本語を教えよう（余計なお世話）」というミッションが発動しました。先生役を買って出たのが、ポール（仮名・五城目一中出身）でした。ポールは学級、学校全体のムードメーカーでした。ところが、大きな問題が一つありました。それは、「ポールはジョン以上になまっている」ということでした。実際、二人が盛り上がっている会話は、同級生の私でも全く分かりませんでした。

ポール先生とジョンの日本語講座は、休み時間、教室の黒板前で行われました。黒板に「しし」「すす」「すし」という字を書き、二人は日々、正しい「さしすせそ」の発音練習を重ねました。以下は、二人の日本語講座の様子を再現したものです。

<実際の会話>

ポ：おれのまねせ。
れぴーと あふた みー。いーが？
ジ：ん。
ポ：えんどつ の すうすう
ジ：えんどつ の すうすう
ポ：まづり の すいすい
ジ：まづり の すいすい
ポ：んでねって。まづり の すいすい
ジ：まづり の すいすい
ポ：あえー わがんねごと。おめの すいすい
だば すうすう だねが。
ジ：おめもおなじだべ。さ・すい・すう・しえ
すお おめいえねーべ。
ポ：よぐゆうで。おめのさ・すい・すう・しえ
すお だば、はなしならね。

<標準語に訳した会話>

同時日本語訳：伊藤悟

ポ：私と同じように発音しましょう。
Repeat after me. OK？
ジ：わかりました。どうぞよろしくお願いします。
ポ：えんとつ の すす （煤）
ジ：えんどつ の すす
ポ：おまつり の しし （獅子）
ジ：おまつり の しし
ポ：ちがうよ。おまつり の しし だよ。
ジ：おまつり の しし
ポ：何度言ったらわかってくれるのかな。きみの
しし は すす に聞こえるよ。
ジ：先生も同じではないでしょうか。さしすせそ
の発音が全部同じように聞こえてきます。
ポ：何を言っているのかな。私の発音は完璧です。
君のさしすせそ には大きな問題があります。

私を含めた同級生は、延々と続く二人の日本語講座を腹を抱えて大笑いしながら見ていました。なにしろ、二人の「さしすせそ」は見事なまでにシンクロしており、「えんとつのすす」も「まつりのしし」も「はたはたのすし」も全部一緒に聞こえるのです。今から40年も前の話です。

今年の正月。高校の同窓会がありました。ポールは幹事長として同窓会全体を仕切っていました。ポールが頑張っているのも、毎回、私たちのクラスはたくさんの仲間が出席します。もちろん、ジョンも出席しました。同窓会のたびに上記の話になり、40年前を思い出して盛り上がります。そして、二人の発音は40年前のままです。大好きな私の友人です。加えて、このクラスは、本当に仲が良く、それぞれに存在感がありました。学校生活の楽しさを存分に味わうことができました。

学校生活の思い出は、人それぞれ。正解はないと思います。私にとっては、楽しい仲間がたくさんできたことが一番の思い出です。かけがえのない貴重な財産だと思っています。

